

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型児童デイ はくぼん藤が丘駅前			公表日	2025年 3月 10日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		子どもたちが走り回るような、運動できるスペースがある。規定より広めの部屋で行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		できる限り加配が取れるようにしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		段差がない。エレベーターを活用している。	トイレに手すりなどであると良い。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日掃除している。レッスンの内容に応じて、机を片づけたりしてスペースを確保する工夫をしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	着替えの時は事務室を利用するなど工夫している。柱の裏など、一人になれる場所はある。	専用の逃げ場は特になし。スペースに限界があるので、難しい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		週報、長期目標設定、面談などある。ミーティングで支援内容を確認している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者向けのアンケートがある。アプリも導入して「保護者様と密に連絡ができる環境づくりをしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		週報や毎日のミーティングがあり、スタッフ間の情報共有をこまめに行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1	事業所内では改善点を話し合い実行はしているのみ。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		社内研修、外部研修に参加してる。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		利用表として毎月配布している。保護者のニーズや課題を反映させ作成している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		スタッフで支援会議を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		ミーティング、支援会議で話すことが多い。スタッフ同士の意見交換の作成されている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		支援計画書は完成後、共有している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		子どもの様子をミーティングで共有している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		様々な観点から計画を作成できるようなフォーマットを使用して、作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		担当者が案を作成して、共有工夫し、本番を迎えている。固定化しないよう、常に新しい情報を検索し、取り入れている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		外部講師との打ち合わせや担当者（仕切り）を変更している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			ミーティングを毎日行っている。特に支援の必要な子については念入りに行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			雑談含め、コミュニケーションをとっている。ラインワークスで共有も行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			一人一人の連絡帳、業務日誌、ミーティングノートに記入し、あとで読み返して支援の内容が分かるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			日々の送迎時に保護者様に、支援の様子を伝えることにより、随時保護者様の意向を反映させ、見直している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6			レッスンの内容によって、複数実施できている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			いろいろま場面で、選択可能な状況を作っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			基本的には管理者が参加。参加前に何を確認したいかなどの参加準備を、スタッフと一緒に行うようにしている。Zoomなどでも行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1		医療機関にはあいさつ回りをして、いざという時に診療してもらえるような体制をとっている。	法人のグループ内の保育園、学童と行っていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			送迎時に情報共有を行っている。学校のメール配信サービスに登録させてもらっている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2			保護者を通じて共有させてもらっている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	4		まだそこまでの年齢の利用者がおらず、前例がない。	今後機会があれば、行っていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	4			法人のグループ内の学童と連携していきたい。直接的な関わりは少ないが、公園で他の子ども意識した遊びを促している。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			メール、電話、連絡帳、送迎時のやり取りをきちんと行っている。面談も行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		保護者会、進路説明会のみ開催できているだけ。子どもたちが普段行っているレッスンを体験してもらい、日々伝えることを伝えている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			契約時に行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			都度コミュニケーションをとりニーズをうかがっている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			都度、説明を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			メール、アプリ、連絡帳、送迎時の会話の中で行っている。相談しやすい環境を作ることを意識している。スタッフ間でも共有。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5		保護者会後に、茶話会を開催し、保護者同士の交流する機会を設けている。	回数を増やしていきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		スタッフ間での共有はもちろん、責任者、本部に報告し、対応する流れになっている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		FacebookやHPなどで発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報のファイルは、鍵のついた書庫に保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		記録に残るようにしている。(口頭だけのやり取りを極力行わない) 特性に合わせたコミュニケーションを心がけている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3	近所のお店への買い物の機会などを作っている。	地域の何かに大勢の中の一人として参加することはあっても、招待はまだない積極的に地域住民と関わってきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		定期的に利用者を対象とした避難訓練を行っている。また職員が角印できるマニュアルも準備してある。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		社内で研修も行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		保護者へ契約時に聞き取りを行っている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	医師の判断が必要な利用者はいないが、契約時に聞き取りは行っている。おやつ作成時に職員間で共有している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		社内で研修を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		より丁寧さは必要だと感じている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		法人全体での共有や、ヒヤリハットのファイルをいつでも手に取れるところにおいて、確認できるようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		法人内で委員会や研修が年に2回必ず行われている。定期的に知識を広げる機会を作っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		契約時に別紙で説明。サインもいただいている。		